

自然観察指導者育成研修会報告

活動日 令和5年10月7日(土)
場 所 飯能市 天覧山
参加者 (6名) 町田 田崎 早川 高杉
(オブザーバー) 岡登 辰尾
講 師 高杉
報告者 早川



やっと秋らしさ感じられる穏やかな気候のもとで観察会が始まった。この研修会は、自然観察会のガイドとして適切に対応できる人材を育成させるために実施されるもので、今回が2回目となる。参加者6名と少なかったが、講師の高杉さんから配布された資料は盛りだくさんであった。

本日の観察会は、キク科、タデ科、マメ科の草本類を中心に、これらの特徴、性質を学び、花の構造と受粉のメカニズムなどの基本知識を学ぶことが主眼となる。キク科の同定のポイントは、頭花の大きさ、総苞の形、総苞片の並び方と形に着目するようにとのアドバイスなどを受ける。

まずは、足元にあったイネ科のコブナグサ、メヒシバ、チヂミザサの見分け方を学ぶ。能仁寺の山門を抜けたところで、モミの木などに寄生する半寄生植物であるマツグミの落枝を発見、幸先の良いスタートとなった。一般道を避けて迂回コースに入ると、お目当てのキク科のセイタカアワダチソウ、カシワバハグマ、コウヤボウキを見つけ、図鑑に書かれた文言を読み上げながら同定のポイントを確認した。キク科のガンクビソウ、シュウブンソウ、タデ科のミズヒキ、ミゾソバ、アキノウナギツカミ、イタドリ、マメ科のヌスビトハギ、ヤブマメ、ノササゲなど目に飛び込むものを次々同定し、特徴を学ぶ。わずか1Kmの距離を進むのに2時間以上も費やしてしまった。

一般道との出会で、午前中で帰られる岡登さんと別れ、昼食となった。倒木に腰かけて食事をしていたら、背中一面にササクサの種がこびりついてしまった。昼食を早々に済ませ、引き続き観察を再開した。里山を抜けて民家が見え始めた辺りで、コバノカモメヅルの5~7cmの披針形の袋果を見つける。珍しいものを見た!と、高杉さんは、興奮気味。(後日、袋果を初めて見た!最大の収穫だったとメールをもらう)。観察力を持続するには、体力と柔軟性(植物の接写を身をかがめて撮るため)も必要と痛感する。

同定された草本類:**キク科**:ユウガギク、ノアザミ、ヨモギ、シラヤマギク、ヒメムカシヨモギ、ハキダメギク、など合わせて**14種**。**タデ科**では、ボントクタデ、ヤノネグサ、サクラタデ、イヌタデなど合わせて**8種**、**マメ科**では、マルバハギ、ヤハズソウなど**5種**、**イネ科**では、スズメノヒエ、カゼクサ、ネズミノオなど**12種**、**その他**は、キチジョウジソウ、コナギなど**24種**の**合計63種**。

報告書を作成中に、高杉さんから観察記録の写真が送られてきました。講師の思いが伝わってきた観察会でした。ありがとうございました。

(キク科)



ユウガギク



同左



ノアザミ



同左

(タデ科)



イタドリ



同左(果実)



ボントクタデ



サクラタデ

(マメ科)



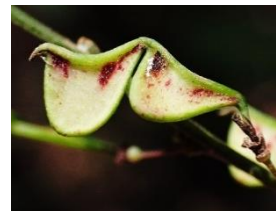
ヤハズソウ



同左



ヌスビトハギ



同左(果実)